

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 ・ 最終)

和庄中学校区 校番 13 学校名 和庄小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
賞 確かな学力	学力の向上	基礎・基本の定着	学期末テストの知識・技能の80点達成した児童の割合、国語科75%、算数科86%である。国語科、算数科合わせると達成値81で達成度101となり目標達成できた。 ○スキルタイム ・全体が揃わない時間帯のため、一斉学習ができない。 ○授業の中で習熟の時間の確保 ・各学年の実態に応じた取組を実施し、児童が自らの伸びを実感でき、意欲的に学習に取り組んでいる。	・スキルタイムを充実させるために、朝の帯タイムを活用するなど、時間帯を変更し、全員が一斉に集中して学習に取り組めるようにする。 ・授業の中で問題演習など習熟のための時間を確保するなど・実態に応じた取組を継続する。
		主体的・対話的で深い学びの実現	児童アンケートの肯定的評価の割合の達成値92達成度108となり目標達成できた。 ○思考ツールを活用した課題発見・問題解決学習(ロイノート活用) ・計画的な教職員研修を組むことで、教職員が一定の水準を確保し指導に当たっている。 ・ICTを使って思考ツールを活用し、児童相互で共有する場の設定はできているが、児童同士の意見の練り合いや友達のと比べ自己の考えを深めるといった整理・分析の場の設定ができていない。	・2学期に全体での授業研究を実施し、全職員で課題発見・解決学習の一連の流れを共通認識する。
賞 豊かな心	和庄中学校区 スピリットに基づく児童の育成	粘り強くやり抜く児童の育成	アンケート(最後まで黙々と掃除ができたか)の肯定的評価の割合 達成値:児童92%, 教師91% 達成度:児童108%, 教師107% ○振り返りの充実 ・振り返ったことをシートに残し見える化することで、目標に向けての意識をもつことができた。 ・振り返りがマンネリ化し、目標となる目指す姿が曖昧になってしまった。	・振り返りの時間を確保するために掃除時間の終了間際に振り返りの時間を示す放送を行う。 ・目標をはっきりさせ、具体的な振り返りを行う。
		礼儀正しく行動する児童の育成	アンケート(年間生活目標を守ったか)の肯定的評価の割合 達成値:児童92%, 教師81% 達成度:児童108%, 教師95% ○「靴そろえキャンペーン」を委員会活動の一環として行うことで児童の主体的活動とすることができた。キャンペーンで高まった意識を継続させることができなかった。	・年間生活目標の中でも「挨拶」に課題があるので、児童を主体とした挨拶キャンペーンを実施する。
賞 健康やかな体	健康促進・体力の向上	個々の体力・運動能力の向上	1学期に実施した結果から県平均の値を上回った項目の割合(数)は男子33%(16/48) 女子31%(15/48)全体では、32%(31/96)であった。 達成値32%, 達成度46%, 評価D ○昨年度の結果と比較すると20mシャトルラン・50m走が改善している。 ○種目別に見ていくと長座体前屈・握力・ソフトボール投げで一昨年度の県平均を下回っている学年が多く見られる。	・長座体前屈・握力・ソフトボール投げで一昨年度の県平均を下回っている学年が多くみられるため、体育科の時間を中心に、それらの能力を高める運動に取り組んでいく。 ・「元気っ子手帳」や「新体力テスト記録カード」に運動の足跡を残し、自分の成長や課題に気付かせるようにさせる。
		災害から自分の命を守る児童の育成(防災教育の充実)	達成値94%, 達成度111%, 評価A ○児童アンケートで肯定的評価をした割合は、「避難訓練で自分で考え行動した。」95%、「避難所で行われている歯磨きの仕方を身に付けた。」88%、「授業を受けて自分の命を守ろうとする意識が高まった。」98%であった。	・継続して防災教育に取り組み、授業では、身近な生活や自分のことと結びつけて主体的・対話的に考えるようにする。 ・実際に児童だけで避難するのは難しい場合もあるため、地域や家庭とも協働・連携を進めていく。
業務改善	教職員が主体的積極的に業務を行う教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	「かなりできた」と回答した職員15%、「まあまあできた」と回答した職員77%、「あまりできなかった」と回答した職員8%だった。 ○肯定的な回答をした職員は92%であり、昨年度に比べると、20ポイント以上上がっている。	・全体では肯定的な回答が92%であるが、上手くいっている方法をしっかり交流して全員が児童と向き合う時間が確保できたと回答できるようにしていく。
		長時間勤務の軽減	時間外勤務4月45時間以下56.5%、80時間以上4.3% 5月45時間以下87%、80時間以上0 6月45時間以下78.3%、80時間以上4.3% 7月45時間以下91.3%、80時間以上0だった。 ○5月、7月は長時間勤務をした職員の割合が減少しているが、5月で言えば5連休があり、勤務日が少なかったこと、また7月では臨時休業や夏季休業が始まったこともあり、改善しているとは言えないかもしれない。2学期は9月から11月まで授業日が20日を超えているので、時間外勤務が1日2時間を超えると40時間を超えてしまう。持ち帰りの業務も削減しなければいけないが、一人一人のタイムマネジメント力を上げる必要がある。	・入校時刻を記入する時に、一人一人がその日の業務内容等を考え、退校時刻を確実に記入する。 ・主任を中心としてチーム会議等で業務改善できることを出し合い、企画委員会で積極的に取り組む。